

# 認知機能訓練特化型のデイサービスを提供 利用者の充実した日常生活をサポートしたい



合同会社 クレファス

認知機能訓練特化型 デイサービス 笑和

福井県福井市上北野 2-23-9

2019年に設立された『クレファス』は、認知機能訓練に特化した「デイサービス 笑和」を運営している。利用者の日常生活の改善を目指して力を尽くす渡辺代表のもとを、本日はタレントのつまみ枝豆氏が訪問。競馬界から介護業界へ異色の転身を遂げた代表に様々なお話を伺った。

代表社員  
渡辺 秀和



interviewer  
つまみ枝豆



——早速ですが、渡辺代表の歩みから。

大阪で生まれ育ち、22歳になるころにオーストラリアに渡りました。私は馬が大好きで、騎手になりたいという夢があったのですが、当時日本では年齢的に難しいと言われていました。けれどもオーストラリアなら実現できる可能性があるという話を聞き、アルバイトしてお金を貯め、オーストラリアにある騎手養成学校に通うことを決めました。そちらで専門知識や技術を学び、4年ほど騎手として活動していました。

——異色の経歴をお持ちだ。それからのような経緯で現在の介護の世界に？

競馬界の現実厳しく、騎手から調教師に転向して3年ほど仕事をした後、帰国しました。そこからは北海道にある知人が経営する牧場で2年ほど勤め、ご縁に恵まれて大阪の整体院の先生のもとで見習いとして働かせてもらうようになったんです。その中で学校にも通って柔道整復師の免許を取得しました。卒業する時に、通っていた学校の先生から「柔道整復師の免許があれば、介護分野でも活躍できる」と言われて、デイサービスを紹介していただきました。それが介護の世界との出会いになりました。

——それまでは、介護のご経験はなかったのでしょうか。いざ未経験で飛び込んで

みて、いかがでしたか。

乗馬経験さえないところから騎手へ、そして家族の介護経験もないところから介護の世界へ飛び込みました。やりたいと思ったら、いてもたってもいられない性格でして（笑）。実際、介護の仕事は自分に合っていると思いましたし、利用者さんの喜びが自分の喜びにつながり、やり甲斐が大きい仕事だと感じました。最初は3カ月ぐらいやってみようという気持ちでしたが、それがいつの間にか3年になっていました。

——その中で独立への思いも芽生えて？

はい。利用者さんとふれあう中で、脳梗塞の後遺症や認知症はなかなか改善されないことが気になり、自分なりに勉強をしていたんですね。そんな中で父が脳出血で倒れたこときっかけで、リハビリの勉強もはじめました。さらに大阪で認知症の改善を実現するために活動している協会があったので、そちらに通って学ぶように。そして、そこで学んだことをデイサービスで活かしたいと考え、2019年に認知機能訓練特化型のデイサービス『笑和』をオープンしました。

——代表は勉強熱心かつ抜群の決断力、行動力をお持ちですね。

勢いだけは誰にも負けません（笑）。リハビリ特化型のデイサービスは数多く

あれど、認知機能訓練特化型は県内でも少ないのではないのでしょうか。まだまだ私も勉強不足で、現場に出ながら勉強を続けており、先述した大阪の協会に今でも毎月通っているんですよ。

——最後にこれからの展望を伺います。

今はコロナの影響で営業にも行きにくいですし、利用を控える方も多くいらっしゃるのが現状。その中でも着実に実績を重ね、将来的にはもう少し広い場所で、認知症の方が快適に過ごせる施設をつくりたいです。また、24時間生活を観察しながら認知機能の改善を目指すグループホームの立ち上げも構想しています。

(2020年10月取材)



「認知症は治らないと諦めるのではなく、進行を遅らせたり、少しでも改善したりできるよう、一人ひとりに合わせたプログラムを提供されているとのこと。認知症で悩んでおられる方やご家族の、希望の光になるサービスですね！」 つまみ枝豆・談